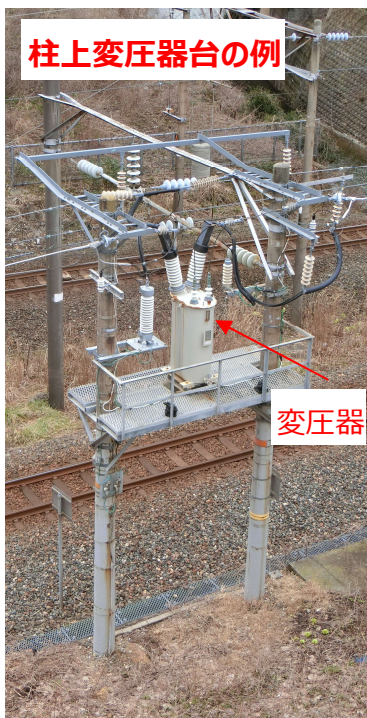


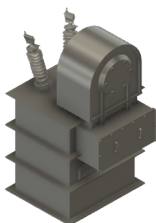
犬走工房製模型としての・・・

RF-403 吸上変圧器

在来線の交流電化区間の多くがBTき電方式という電化方式になっています。詳しい説明は専門書やWeb上の解説ページに譲りますが、このBTき電方式において欠かせない「吸上変圧器（Booster Transformer）」の載った変圧器台です。理論上約4kmごとに設置されるため、交流電化区間の沿線で比較的多く見られます。電化区間特有の設備であるため、多くの場合架線柱と一体となっています。



親不知駅付近



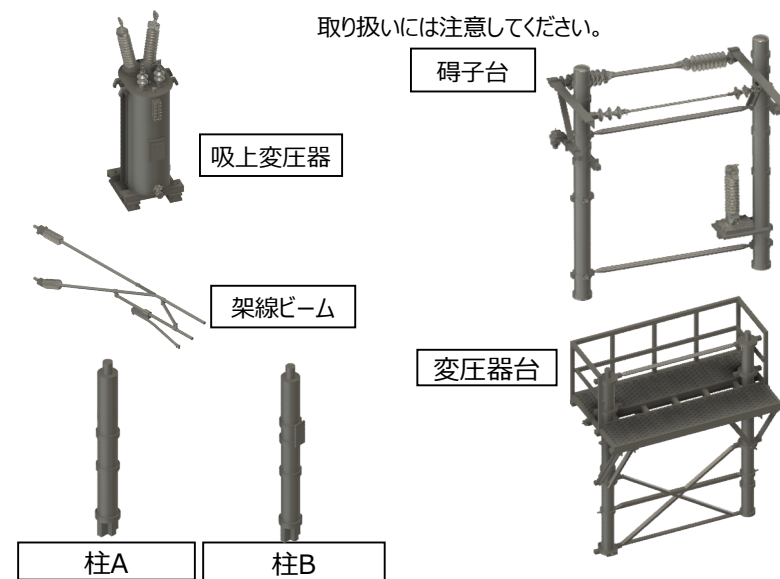
製品には付属しません

吸上変圧器イメージ

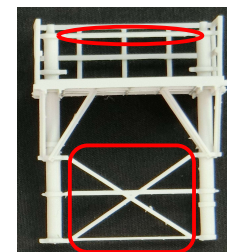
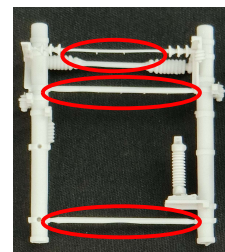
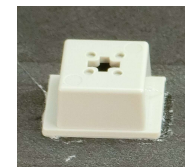
なお、鉄道模型趣味誌No.974 2023年3月号に平山貴満氏による「拘りの柱上変圧器台を作る」とした優良記事が掲載されており、本製品の製作および本説明書の参考とさせていただきます。

商品構成

各部品1個ずつ梱包されています。
碍子等破損しやすい部分もありますので
取り扱いには注意してください。



柱はKATOユニトラック架線柱用の台座（右写真：台座部分のみ切り取ったもの）に差し込んで固定できるように成形しています。KATO製品の台座を使用して固定するか、柱下部の凸モールドを切り落として接着剤固定して使用してください。



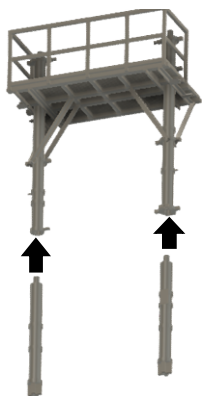
※赤線で囲った部分は形状維持のための補強材です。組立時には除去（ニッパーでカットを推奨）してください。
碍子間の2本は導体と想定して残してもよいかと思います。

上記構成や名称は模型製品として便宜上付与したものですので
実際とは異なっている場合があります。ご了承ください。

組立方法

- ・組立には接着剤（透明ゴム系、瞬間接着剤等）を使用して
ください。
- ・柱は差し込み式で組み立てますが、穴がきつい場合には
1.8mmドリルにて穴をざぐってから差し込んでください。
- ・組立前にサポート痕を除去するときれいに仕上がります。
- ・塗装する場合には塗装と組立の順序をよく検討してください。

①柱の取り付け

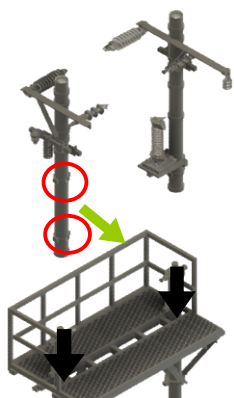


変圧器台下部に柱を2本、下から差し込み取り付けます。

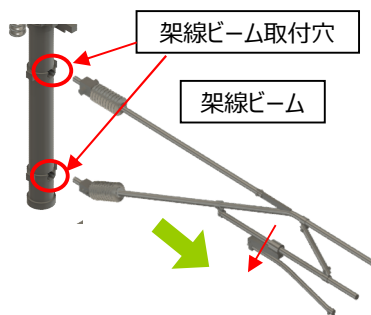
柱Aと柱Bに構造の差はありませんので（柱Bには表示板のモールドがある）お好みの向きで取り付けてください。

KATOユニトラック用架線柱用台座を使用する場合は台座に仮挿入した状態で接着すると、設置時の台座の曲がりを防ぐことができます。

②碍子台の取り付け



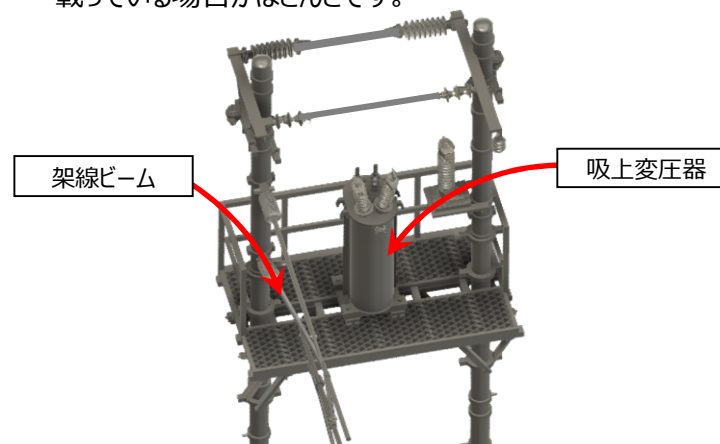
碍子台を変圧器台上部に差し込み接着します。架線ビーム取付穴が変圧器台の手すりの無いほうに向くように接着します。



架線ビームを架線ビーム取付穴に差し込み接着します。取付穴は小さくなっていることがあるので1mmドリルでさらってから差し込んでください。

③変圧器の設置

変圧器を変圧器台の上に設置します。変圧器台中央に載っている場合がほとんどです。



実物の「柱上変圧器台」には様々な形態が存在します。組立見本図は一例です。碍子の向き、変圧器の配置や向きなど身近な実物を観察して組立をするとよいでしょう。また、変圧器端子や碍子と、上部高圧線間に極細エナメル線等で配線するとリアルさが増すでしょう。